シャンティ国際ボランティア会

年次報告書 2015

シャンティ 2016年6月1日発行 増刊 通巻285号
1985年6月28日第三種郵便物許可 ISSN1343-4748

本の力を、生きる力に。

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association

©Yoshifumi Kawabata

© Yoshifumi Kawabata

小さい頃から通い続けた図書館は、これまでつぶっていた私の目を大きく開かせてくれたのです。

私は難民キャンプの学校を卒業し、小学校の教員として働いています。図書館で出会った本を通じて、私はさまざまなことを学びました。これからもたくさん勉強して、次の世代を担うリーダーを育てたい。それが、自分に与えられた使命だと感じています。

彼女の名はノウ・ジュライ・ポー。23歳。5歳のときに、ミャンマーのチャドエース村から、両親とともにタイにあるメラ難民キャンプにやってきました。

村での生活は、食べ物にも困るほどの貧しい日々。このままでは生きていくのも難しいと感じた両親は、国境の長く険しい山道を越えて、難民キャンプを目指すことを決意しました。

ところが、せっかく移り住んだ難民キャンプでは、両親のケンカが絶えません。

お父さんとお母さんの言い争う姿なんか見たくない。

そう思ったポーさんは、図書館に足を運ぶようになります。

図書館では、たくさんの本を夢中で読むことができました。

大好きな絵を描くこともできました。

図書館で開催された絵のコンテストでは堂々の二位を獲得。自分の絵が壁に貼り出され、みんなの前で表彰されて、自分自身をとても誇らしく思うことができました。

家にいるのがつらくて通い始めた図書館でしたが、ポーさんは図書館がますます好きになり、読み聞かせなどの活動にもすすんで参加するようになりました。

ポーさんは、図書館をきっかけに本と出会い、学ぶことを覚え、高校を卒業する時にはその優秀な成績を認められて、将来の夢だった学校の先生になることができたのです。

紛争、自然災害、貧困により学校に通えず、図書館などの施設もなく、本を手にすることのできない子どもたちは、学ぶ機会も、将来の夢も得られないまま大人になってしまいます。

本を開くことは、未来を拓くこと。

本を通じて学んだことは、ポーさんのような子どもたちにとって、自分たちの未来を切り開く力となるのです。

シャンティが行なう
活動の3つの柱

本を読む機会を提供する

私たちはなぜ本を読むのでしょう？　楽しいから？　役立つから？　ためになるから？　……そう、本は知識、情報、感動など未知の世界を教えることによって、私たちの心にさまざまな「気づき」を与えてくれます。本を読むこと、選ぶことは、私たち自身の「好き」や「嫌い」を知ること。読書とは自分自身を発見し、今、自分が居る場所をあらためて見つめ直す貴重なチャンスでもあるのです。

シャンティでは、このような「本の力」を「生きる力」ととらえ、子どもが読むための本が不足している国で、絵本の出版や日本から絵本を届ける活動を行なっています。本を読むことで、子どもたちは文字を知り、生きるのに欠かせない情報を得ることができます。

人を育てる

私たちシャンティは「どんな人にも寄り添う姿勢」を大切にし、図書館に携わる「人」の育成に力を入れています。

子どもたちが本に接する機会を増やすには、子どもたちを優しく受け入れてくれる「図書館の担い手」が不可欠です。図書館員は「こわい先生」ではなく、みんなを受け入れてくれる「優しい仲間」。たとえ文字が読めなくても、図書館員が助けてくれるから大丈夫……そんな「寄り添いの図書館」を実現するために、図書館員や保育士、教員などを対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居の実演などの実技演習を行なっています。

また、絵本を創作する作家、画家、編集者へのトレーニングを実施するほか、絵本の作り手を発掘、育成するため、絵本コンクールを開催しています。

安心できる場所をつくる

子どもたちにとって、「安心して過ごせる場所」はとても大切です。どんなに辛くても、図書館に行けば安心できる。図書館に行って本を開けば、心を落ち着けて学ぶことができる。私たちは、図書館を子どもたちにとって本と出会う場、安らぎの場、救済の空間にしたいと考え、コミュニティ図書館建設や図書室づくりを行っています。また、地域住民のみなさんにも図書館を開放し、教育の効果や必要性をより具体的に伝えることにも取り組んでいます。図書館は、教育への理解や意識向上をはかる場としても期待できるのです。

図書館以外にも、子どもたちが安心して学べる環境をつくるために、学校や孤児院も建設しています。村の住民参加型で建てられる学校は雨露を気にせず精一杯学べ、子どもたちだけでなく、先生たちにとっても誇りになっています。

みなさまへ

会長　若林　恭英

日頃、シャンティが目指す平和な社会実現に向け、ご賛同・ご協力いただき、心より感謝申し上げると共に、ここに年次報告をお届けできることを嬉しく思います。

設立以来、34 年を経過し活動内容も厚みを増して、当初サポートした子どもたちは大きく成長し、りっぱな大人として社会で活躍しています。また、お陰さまで現地スタッフも経験を積んで、より効果的な事業展開ができるようになりました。

昨年 4 月 25 日に発災したネパール地震の緊急支援がひと段落した 11 月、現地視察をしました。渓谷に吊り橋が架かり、揺れるのを慣れた足取りで迎えに来る子どもたち、手に手に花を持ち、満面の笑みをたたえ歓迎してくれました。ここは、ヌワコット郡バドラタの小学校。支援の手が届きにくい郡部の 91 校に仮設の校舎を提供したうちの 1 校です。発災当日、休校だったため崩れた校舎の下敷きにならなかったのは不幸中の幸いでした。校長先生はじめ村人たちも集まり贈呈式はお祭りムードで、いかに喜んでもらえたか、言葉は通ぜずとも体感することができました。今後こうした信頼関係を基礎に、シャンティは新たに継続してネパールへの教育・文化支援に取り組む方針です。

どうぞ今後ともお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

常務理事　市川　斉

シャンティは 5 ヶ年の中期計画（2014 年～2018 年）の下、(1) 事業展開、事業運営 (2) ネットワーク、政策提言 (3) 広報、財政、ファンドレイジング (4) 組織運営、経営 (5) 職員（人材）育成の 5 つの分野ごとに成果を設定。①より困難で弱い立場におかれる人びとが、自ら考え、問題を解決する力を培っていけるよう、読書推進、図書館活動の取り組みを拡充し、②活動対象国、地域の政府や関係機関が、その教育政策のなかに読書推進、図書館活動の位置づけを与えていくよう、提言活動に取り組んでいます。2015 年はこの中期計画の 2 年目の年にあたり、特に事業展開において変化の年となりました。5 年目に入った東日本大震災における復興事業は、それぞれの地域の復興状況を見すえながら、地元にその役割を引き継ぎ、収束へと向かう一方、福島では新たな一歩を踏み出しました。また、25 年目を迎えたカンボジア事業では、これからの役割、方向性を検討するタスクチームを立ち上げ、これからの展開についての協議を継続してまいります。

事務局長　関　尚士

世界の 2 割の富める人々が、世界の 8 割の豊かさを享受し、未だ 5 人に一人が深刻な貧困の中で暮らしている現状が続いています。不公正な社会の仕組みを改善し、世界の貧困を半減することを目指して、2000 年に国連ミレニアム目標（MDGs）が定められ、その達成に向けた取り組みが続けられてきました。2015 年はその期限となる年であり、世界各地で多くの成果が確認されました。

シャンティも教育セクターで掲げられてきた目標である、初等教育の完全普及、成人識字率 50%改善等の達成に向け、各国での取り組みを続けてまいりました。活動現場では目に見えた成果が得られてきた一方で、最終学年までの残存率は 70% 前後、識字率は 80% 前後に留まっています。

シャンティはこれらの課題を引き継ぎます。そして 9 月に採択された次の 15 年間の国際開発目標（SDGs）における「誰ひとりとり残さない」持続可能な開発という理念の下で新たに設定された、「すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という教育目標の達成に向け、取り組みを前進してまいります。

本を開くことは未来を拓くこと。

世界には、生まれた環境が違うというだけで、本を知らない子どもがたくさんいます。
シャンティはアジアの困難で弱い立場にいる子どもたちが、未来に希望を持って
生きていけるよう図書館活動の取り組みを行なっています。
本を手にすることは、すべての人間に平等に与えられた権利です。
一緒に応援してください。
まだ本を知らない子どもたちのために。

Move forward. hand in hand.

事業報告目次

08　タイ
09　カンボジア
10　ラオス
11　ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ
12　アフガニスタン
13　ミャンマー
14　緊急救援
15　東日本大震災被災者支援活動
16　共感する仲間づくり
18　会計報告
20　組織ネットワーク
21　組織図

タイ
Thailand

1

2

1 奨学金授与式
2 奨学生の自宅（タク県）

スラムや移民労働者の子どもたちを支援する奨学金事業に取り組む

2014 年の軍事クーデター後、プラユット暫定政権下で落ち着きを取り戻しつつあるかにみえるタイですが、現在も戒厳令下にあり、言論や報道の自由が規制されている状態が続いています。

プラユット暫定政権では、政策の一つとして国境地域の経済特区開発を推進しています。シャンティが事務所を置く国境の街メーソットも、優先的に開発を進める地域の一つであり、東西経済の要衝として物流や投資、雇用に期待がかけられています。

こうした国境地域の開発は、近隣諸国の労働力をタイに取り込む狙いがあります。水産加工工場が集まるサムットサーコーン県マハーチャイ地区では、ミャンマーからの移民労働者が 12 万人近くも存在することがわかっており、ASEAN 経済共同体が主導する大規模な開発を背景に、今後、国境を越えた人の移動がより活発になることが予想されます。

しかし、移民労働者が増加すれば、ともにやってくる子どもの教育問題が懸念されます。タイでは無償教育制度が導入されていますが（就学前 3 年間及び高校までの 15 年間の学費無償）、実際の学校現場では運営資金が不足し、保護者から追加徴収せざるを得ない状況です。そのため、経済力の弱い地方やスラムに住む保護者に大きな負担がかかっています。

このような現状を鑑み、シャンティが設立した財団法人シーカー・アジア財団（SAF）では困難な状況に置かれている都市部スラムの子どもたち、少数民族や移民労働者の子どもたちへの教育の機会拡大を目指し、教育支援事業を中心に取り組みました。

パヤオ県、タク県、バンコク・スラム地区の奨学金事業では、約 430 人の中学・高校・大学生に奨学金を支給し、現在も学校教員と連携しながら奨学生の選考や申請の手続きを進めるほか、奨学金事業担当職員が対象地域で家庭訪問を実施し、選考基準に照らし合わせた奨学生の選考を行なっています。

また、2015 年 6 月には奨学金事業担当スタッフが訪日する機会をいただき、日本の支援者、関係者の皆さまへ、奨学生が置かれている現状報告も行ないました。

SAF はより継続的で社会的責任のあるタイの NGO としてシャンティから 2015 年 3 月に独立し、新たな一歩を踏み出しました。今後は学び合うパートナー団体として、引き続き社会的・経済的困難により就学できない都市部スラム、農村や山岳少数民族の子どもたちが自分の力で未来を選択できるよう、支えて参ります。

カンボジア
Cambodia

1

2

1 紙芝居の読み聞かせ活動（スラムのコミュニティ図書館）
2 シャンティが出版した絵本
© Yoshifumi Kawabata

シャンティの事業をモデルにしたコミュニティ図書館（CLC）ガイドラインの制定

近年めざましい発展を遂げているカンボジア。教員の月収が 125 から 162 米ドルに引き上げられ、高校の卒業試験の合格者率が昨年に比べ 30％向上するなど、教育面での整備も順調に進められています。しかし、一方では教育格差の広がりや高い非識字率など、経済発展の影で置き去りにされる弱者がいることが大きな問題となっています。

そうした課題の解消に向けて、2015 年度からシャンティでは、新たに幼児教育の質の改善事業をスタートしました。バッタンバン州で計 66 の幼稚園を回って対象幼稚園を選定調査し、モデルとなる 3 校を対象に啓発研修や教室装飾研修を行ないました。また、本棚などの家具や絵本も配布し、うち 2 校では教室の改装を行なうほか、社会福祉法人天竜厚生会（静岡県浜松市）の協力により、幼児教育マニュアルを開発しました。

また、カンボジア教育省はシャンティが建設したコミュニティラーニングセンター（CLC）をモデルに、コミュニティ図書館ガイドラインを制定しました。

コミュニティ図書館は日本でいう公民館の役割を果たす施設ですが、コミュニティ図書館ガイドラインの制定によって、本格的な識字教室の実施や多目的ホールの設置が行なわれたほか、保健衛生やスポーツなどの活動の場が設けられるなど、より充実したコミュニティ図書館の設立、運営に貢献することが期待されます。なお、シャンティは今年度もコンポントム州に 1 ヶ所、バンテイミンチェイ州に 2 ヶ所、コミュニティ図書館を新たに開館。現在計 5 館のコミュニティ図書館が運営されていますが、このうち 3 館のコミュニティ図書館では、現地 NGO との協力により、農業普及員 54 名を対象に野菜栽培、養鶏、稲作の研修が実施されました。このコミュニティ図書館事業は、国内外における ESD（持続可能な開発のための教育）の優良事例を顕彰する「ESD 岡山アワード 2015」にてグローバル賞を受賞しました。

このほか、ドリーム小学校事業、住民参加による学校図書館運営事業（計 14 校の小学校にて 2 度目の図書館員研修と図書の配布、対象校のモニタリングとフォローアップ調査）、小学校建設活動（バッタバン州に 5 校、バンテイミンチェイ州に 2 校）、仏教学校における図書館推進事業（プノンペンの 1 寺院とコンポンチャム州の 4 寺院に仏教図書館を設置）、プノンペン市のスラムのコミュニティ図書館推進事業（アピワットミンチェイ・スラムに常設コミュニティ図書館の建設が完了）なども合わせて行ないました。

ラオス

Laos

1 移動図書館活動での読み聞かせ
「しっぽのはたらき（福音館書店）」
2 ヴィエンカム郡の小学校
© Yoshifumi Kawabata

少数民族の子どもたちへ
施設改善・教員の指導能力改善事業を実施

ヴィエンチャンを中心に経済発展が進むラオスですが、教育面においては、都市と農村部との間で著しい格差が存在しています。2015 年は ASEAN 統合を迎え、こうした格差の解消に取り組むなか、ラオスの教育スポーツ省は、地方農村部における教育環境の整備や、学校運営の改善に向けた計画を立てています。

シャンティのラオス事務所も同省の計画に沿って、ラオス北部ルアンパバーン県にあるヴィエンカム郡（貧困ランキング 143 郡中 13 位）を対象に事業を実施しています。

少数民族の割合が約 9 割にも及ぶヴィエンカム郡は、都市部から離れた地域にあり、貧困が恒常化した状態にあります。新聞も届かず、テレビやラジオさえない家庭が多いため、公用語であるラオ語を習得している子どもたちの割合が非常に低くなっています。

ラオス事務所ではこうした状況の改善に向け、子どもたちが教育を受けやすくなるように学校やトイレを設置するほか、教育の質の向上を目指した教員の育成研修、補助教材（紙芝居や絵本の出版）の開発と作成、そして移動図書館活動を実施しています。

学校やトイレの設置を行なう施設改善事業は、雨期が終わる 9 月に開始し、校舎に使用する木材の調達や建設作業のモニタリングは教員や住民が行なうなど、地域住民参加型の事業として展開されています。

また、教育の質の向上を目指した指導能力改善事業では、教員と教室が圧倒的に不足している複式学級で、効率的な授業方法を習得するための研修会を実施しました。

教育の現場では、「一人で 3 学年を受け持っており、絶えず騒いでいる児童もいるなか、集中して授業を受けさせることが難しい」「授業中、自分が何をどう教えているか混乱してしまうこともある」「学年の異なる 50 人もの子どもを相手に授業することは本当に大変」など教員の声が聞かれましたが、改善事業の結果、「自分の指導法を見直すうえでとても勉強になった」「新しい校舎のおかげで隣のクラスの児童の声が聞えなくなり授業に集中できた」といった前向きな感想も得られました。

このほか、少数民族の民話を題材にした絵本と紙芝居を 2 タイトルずつ制作し、ラオスの公用語であるラオ語を学習するための「フラッシュカード（単語カード）」の作成を開始しました（2016 年 8 月頃完成予定）。

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

Myanmar (Burma) Refugees

1 ヌポ難民キャンプのコミュニティ図書館
2 メラウ難民キャンプの様子
© Yoshifumi Kawabata

図書館活動の定着に向けた研修や、
本国への帰還を視野にいれた資料の配架

2015 年、ミャンマー国内では大きな政治的転換点を迎えました。ミャンマー政府軍と少数民族軍との争いが停戦合意に至り、長年に渡って続いてきた戦闘に終止符が打たれることが期待されています。また、2014 年末から行なわれてきたタイ・ミャンマー政府間における難民帰還に向けた議論が大きく進展し、ここ数年の間に多くの難民が帰還すると予測されています。

しかし、難民キャンプでは、本格的な帰還が実現するにはまだ多くの時間が必要だと考えられています。「この停戦を十分に信用することはできない。しばらく状況を見なければならないのではないか」「結局のところ帰還は難民の自主的な判断に委ねられるもの。タイ政府からもミャンマー政府からも、帰還に関するアナウンスはまだ何もない」など、慎重な意見が多数派です。

一方、難民キャンプでは年々国際支援が減少し、事務所を閉鎖、あるいは事業規模を縮小する NGO が増えています。食糧配給など社会的サービスが少なくなり、若者の非行や自殺者の増加といった深刻な問題も顕在化しつつありますが、難民キャンプ内の住民やコミュニティ図書館関係者からは「ミャンマーに帰還したらコミュニティ図書館を建てたい。その手伝いをしてほしい」「難民キャンプにあるものよりも大きな図書館を建てたい」といった、うれしい言葉も聞かれています。

現在シャンティは、7 ヶ所の難民キャンプでコミュニティ図書館を 21 館運営していますが、難民キャンプでは第三国定住などの理由から人材の流出が著しく、住民を主体とした図書館運営が困難になっていることが課題の一つになっています。こうした課題を解消するため、難民キャンプ委員会のメンバーや図書館員を対象に、図書館運営に対する主体性を高く保つための研修会を実施しています。

また、図書館事業を学校教育の質の改善にも役立てるため、保育園や小学校、中等教育を担当する教職員を対象に、図書を授業の補助教材として活用する手法を身につける研修会も実施しました。

このほか、将来的な帰還を見すえ、難民キャンプ内の住民がミャンマー本国の知識や情報を得られるよう、本国で購入した本、新聞、雑誌、一般教養書などを図書館に配架しました。

アフガニスタン
Afghanistan

1 シャンティが設置した学校図書室
2 完成した校舎

反政府武装勢力の攻撃を受けるなか、校舎建設や図書活動を実施

アフガニスタンでは、治安の悪い状況が依然として続いています。民間犠牲者の数も年々増加しており、2015 年の負傷者数は約 3,300 人と、2009 年のほぼ 2 倍近くにも上ります。

犠牲者の 90％は、戦闘や自爆テロの巻き添えになるケースがほとんどで、その 70％が反政府武装勢力によるものです。学校も反政府武装勢力のターゲットにされており、2014 ～ 2015 年度には 70 以上の学校に対して攻撃が行なわれ、11 人の子どもが死亡、46 人が負傷しました。また、2015 年 8 月には教科書を輸送中のトラックがタリバンによって襲撃され、教科書が焼き捨てられるという事件も起こりました。

シャンティの活動地域であるナンガハル州の一部の地域では、政府軍と反政府勢力軍の紛争だけでなく、IS（イスラム国）とタリバンとの衝突も激化しています。タリバンの新しい指導者は政府との和平交渉を推進していると期待されていますが、和平反対派が分裂する怖れもあり、予断を許さない状況が当面続くと予想されます。

こうした状況のなか、シャンティはスタッフ及び事業所の安全に配慮しながら、学校建設を通した教育改善事業や、図書室の設置と図書館員研修を中心とした図書館活動を行ないました。2015 年はカブール市にて 2 校の学校を建設、2016 年 3 月からは約 2,400 人の児童が快適な教室で学べるようになる予定です。

また郡部における学校図書室事業では、図書館活動の普及を目標に校舎建設を行なった学校 2 校に図書室を設置し、9 校約 300 人の教員を対象に教員研修を、15 校約 60 人の教員と図書館員を対象に図書館員研修を実施しました。絵本 5 タイトル、紙芝居 1 タイトルを出版しましたが、他の NGO から購入の要望があり、絵本 5 タイトルを販売用に増刷しました。

学校図書室だけでなく、地域の子どもたちの読書推進活動が普及するよう、2014 年にシャンティが出版した図書をナンガハル州の公立図書館 5 館と、カブール市の公立図書館に供与し、ジャララバードの子ども図書館でも図書活動や特別教室を実施しました。

ミャンマー
Myanmar

1 寺院学校での授業（ピー県）
2 寺院学校の生徒
© Yoshifumi Kawabata

寺院学校の建設や、児童図書出版の改善に向けた絵本コンクールの開催

2011 年に文民政権が成立した後、急速に民主化が進むミャンマー。2015 年 3 月末には政府と 16 の少数民族武装勢力との間で停戦協定が合意され、11 月に行なわれた総選挙ではアウン・サン・スー・チー氏が率いる国民民主連盟（NDL）が圧勝するなど、新政権の発足がいよいよ実現する見通しとなりました。

ミャンマーでの活動も 2 年目に入り、事業運営も 1 年目の経験を生かしてスピードアップしています。2015 年度は、関係機関との連携を強化しながら、寺院学校改善事業、ノンフォーマル教育事業、公共図書館改善事業、児童図書出版改善事業などを実施しました。

ミャンマーでは、学校を建設・運営する十分な国家予算がなく、公立小学校が不足しています。そのため、小学校に代わる教育機関として、お寺が運営する「寺院学校」が子どもたちの教育を担っています。公立小学校と違い完全無償なので、貧困家庭の子どもたちが多く通っていますが、お寺と地域コミュニティの寄付のみで運営されているため、学校運営は常に困難な状況にあります。こうした状況に対応するため、寺院学校改善事業ではバゴー管区ピー県に寺院学校 3 校を建設するほか、教員を対象とした研修会を実施し、教育の質の改善にも取り組みました。

ノンフォーマル教育事業では、「学校に通っていない子どものためのライフスキル教室」をピー県の 3 つの村で実施し、10 歳～ 17 歳の子ども 102 人が無事に終了したほか、「学校を途中退学してしまった子どものための夜間小学校」をタヤワディ県の 3 つの村で支援、10 歳～ 14 歳の子ども 20 人が進級または卒業しました。

また公共図書館改善事業では、バゴー管区タヤワディ県 8 館の公共図書館に家具と図書を供与し、児童スペースを設置しました。また、日本から専門家を招いて、図書館員を対象とした図書館研修も実施しました。さらに、三輪オートバイを改造した移動図書館バイクを供与し、図書館へのアクセスがない学校などでの移動図書館活動にも力を入れました。

児童図書出版改善事業では、ミャンマーでの児童図書出版の改善と発展を目指し、作家、イラストレーター、編集者など約 30 名を対象に、日本から専門家を招いて絵本制作研修会を行ないました。また、ミャンマーの作家協会との共催で「友情」をテーマに絵本コンクールを開催し、受賞した 6 作品のうち 2 作品の出版が完了、残り 4 作品は 2016 年 2 月に出版される予定になっています。

! 緊急救援
Emergency Relief

完成した仮校舎（ネパール）

ミャンマーピー県パダウン図書館前

ネパール中部大地震、ミャンマー水害、アフガニスタンでのワジリスタン難民流出に対し、支援活動を実施

ネパール大地震緊急救援事業

2015 年 4 月 25 日に発生したネパール中部を震源とするマグニチュード 7.8 の地震の緊急救援活動を行ないました。この地震による被害は、翌月 12 日に発生したマグニチュード 7.3 の地震と合わせ、死者 8,000 人以上、全壊家屋 50 万棟以上にも上ります。

被災直後から、甚大な被害を受けたヌワコット郡で物資配布および初動調査を行ない、①子どもたちのための学習環境整備事業と、②女性たちのための生活再建支援事業を立ち上げました。

①では、仮教室建設（124 棟 248 教室）とトイレ建設（34 棟）及び水タンク 14 棟を設置し、文房具や遊具を配布し、計 91 校に支援を実施しました。

②の事業では、子どもの遊び場スペースを併設した女性向けのシェルター及びトイレ建設（7 棟）、絵本の読み聞かせや身近な素材を使った遊び道具の作り方実習など、子どものための活動に関する 3 日間の研修も実施しました。シェルターは、被災した女性たちが協力し合って生活を再建するための重要な施設として活用されています。

ワジリスタン難民支援

2014 年 6 月に発生したパキスタンの反政府武装勢力によるカラチ空港への大規模テロを契機に、パキスタン政府は、武装勢力の拠点であるワジリスタン地域で大規模な掃討作戦を開始。その後激しい戦闘が繰り返され、アフガニスタンに避難する住民が続出、その数は 2014 年 11 月 4 日の時点で 28 万人以上に上りました。急速な難民の流入により国連の備蓄食料は尽きかけ、厳しい冬を目前に迎える中、アフガニスタン側へ逃れた難民 7,280 人に対して緊急食糧・物資配布、越冬支援を実施しました。

ミャンマー水害緊急救援活動

6 月下旬から断続的に続いた大雨で、ミャンマーでは洪水が発生。一部地域では住民が主要道路沿いの仮設小屋に避難したり、避難所として開放された寺院で避難生活を送っていました。

こうした状況のなか、シャンティでは事業地であるピー県の郡総務局や避難所の担当者と調整を行ない、11 ヶ所の避難所の 845 世帯 3,500 人を対象に魚の缶詰、屋根や敷物としても使えるビニールシート、下痢や体調不良の解消に役立つ経口補水塩を配布しました。

東日本大震災被災者支援活動
Eastern Japan

気仙沼・岩手事務所では地域の方たちへ引き継ぎを視野に入れた活動、山元事務所では寄り添いの活動を継続

大震災から 5 年目を迎える気仙沼では災害公営住宅の整備が遅れており、2015 年末時点での災害公営住宅への入居は約 20％にとどまっています。2016 年内には 80％の住居が完成する予定ですが、すべての入居が完了するには 2017 年春までかかりそうです。

気仙沼事務所では「つながる人の和」を掲げ、地域住民との合意に基づくまちづくりの支援や、子どもたちに自然とふれあう機会を提供する子ども支援事業、また、漁村の活性化を目指し、加工場の建設や「海の駅よりみち」でのイベント協力を通じた生業支援事業を行ないました。同時に、各事業を地元に定着させるためのしくみづくりに取り組みました。

一方、岩手県の被災地では、大型の災害公営住宅と高台移転団地が完成し、仮設団地からの移転が進みました。2015 年 12 月時点での仮設団地の入居率はいまだ 60％に上るものの、仮設団地を出られる見通しの人も増え、それぞれが希望する団地や宅地の完成を待つ段階になりました。そうした状況のなか、シャンティでは引き続き移動図書館活動、図書室運営、文庫活動を行ない、読書機会の提供や人々の交流の場づくりに注力しました。そして復興には今後もまだ長い時間がかかることを考え、岩手事務所の閉鎖後も成果が持続するよう、山田町、大槌町、大船渡市の活動を地元の行政や民間団体に引き継ぐことを決定しました。

宮城県山元町でも、仮設団地から災害公営住宅への引っ越しが加速し、住民の 3 分の 2 以上が退去する団地も出てきました。一方、福島県南相馬市などでは避難指示解除の決定が先延ばしになるなど、不透明な先行きに不安を募らせる人々も残されています。

山元事務所では、そうした人々に対して移動図書館を通じて心安らぐ居場所づくりや住民交流のサポートを行ない、復興に向かうなかでの格差を見落とさないよう注力しました。また、南相馬市でのコミュニティ支援活動については、10 月より担当者が現地に常駐し、2016 年 4 月に予定されている小高区の避難指示解除にあわせ、本格的な活動開始のための現地との関係づくりを進めています。

気仙沼事務所／「あつまれ、浜わらす」でのツリーハウスづくり

岩手事務所／移動図書館を引継ぐ山田町立図書館へ車両の贈呈式

山元事務所／高齢者にも移動図書館のファンは多い

シャンティが行なう 共感する仲間づくり

お一人おひとりに合った多様な参加方法

■アジアの図書館サポーター

アジアには「本を知らない子どもたち」がまだたくさんいます。この子どもたちのために、本を届けたり、図書館の運営や図書館員の育成を行なうなどの継続的なサポートが必要です。「アジアの図書館サポーター」は、毎月1,000円から始められる継続寄付のプログラムです。サポーターになっていただいた方には、子どもたちの写真付メッセージカードや機関誌「Shanti」をお送りします。2015年は「マンスリーサポーター」として新しく172人の方が加わり、現在1,340人の皆さまがアジアの図書館運営を支えています。

1 子どものメッセージカード
2 カードを書いている子ども
3 機関誌（特典）

■もので寄付するプロジェクト
～お片づけをすればするほど社会貢献に～

不要になった本、CD、DVDが寄付になる「もので寄付するプロジェクト」は、小説やマンガなど買い取りで有名な「ブックオフオンライン」の他に、ビジネス書、医学書などの専門書を回収している「バリューブックス」と提携しています。

また「おたからや目黒山手通り店」のご協力で、アクセサリー、ブランドバッグ、カメラ、携帯電話、金券・商品券などを集めるおたからエイドもスタートしています。ぜひご協力ください。

シャンティの活動に興味をお持ちの方はお気軽にご連絡ください。

さまざまな参加のかたちがあります。活動報告会への参加。東京事務所でのボランティア、インターンシップ。ご寄付は郵便局からのお振込みの他、クレジットカードでもお受けしています。また、ご自身の財産の遺贈寄付、故人の意志を受け継ぐ相続財産の寄付をお考えの方はご相談ください。

- Email：info@sva.or.jp
- 電話：03-5360-1233
- http://sva.or.jp

※皆さまからのご寄付は寄付金控除の対象となります。
控除額は寄付金額や年間所得によって異なります。

シャンティ国際ボランティア会　検索

■絵本を届ける運動

子どもの読む本が足りないアジアの地域へ、日本で親しまれている絵本に、現地語の翻訳シールを貼って送る「絵本を届ける運動」。

2015年は16,620冊の絵本をカンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマー、タイに送ることができました。

2016年はクメール語、ラオス語、カレン語、ビルマ語、ダリ語の5言語の絵本を18,164冊送ることを目標にしています。絵本セットの内容は、絵本1冊と翻訳シール、説明書、あいうえお表です。1セット2,200円。

参加お申し込みはこちらから

絵本を届ける運動　検索

http://sva.or.jp/activity/program/ehon/

お手元に届く絵本セット

「わたしのワンピース」
（絵・文：にしまきかやこ／こぐま社）

■クラフトエイド

アジアの少数民族や農村の女性たちによる手作りの手工芸品を販売しているクラフトエイド。フェアトレードにより適正な賃金を支払うことで、女性の家族の生活を支えています。

2015年はイラストレーターで絵本の制作も行なうaurinco（アウリンコ）氏と山岳民族紹介カードをつくりました。商品と一緒にお客様へ渡しています。シャンティが新たに開始したミャンマーでの教育支援に伴い、ミャンマーの日常着であるロンジーからつくられたバッグやデザイナーのFUJI TATE P（フジタテペ）氏と共につくった新しいデザイン商品の販売も行なっています。

ご注文はこちらから

クラフトエイド　検索

http://craftaid.jp

民族カード LISU

2015年カタログ

小さい頃から刺繍を刺す（モン族）

活動地の現状を知ってもらうための広報活動

2015年は10回の報告会・イベントを開催し、394人にご参加いただきました。
メディア掲載の一部抜粋を下記にお知らせします。

3月　西日本新聞　スラム育ち夢の外交官へ（タイ）
4月　東京新聞　かこさとしさん一筆箋で力に
5月　読売新聞　フェアトレード啓発のイベント
6月　日本経済新聞　世界難民の日「サッカーフェスティバル」（難民キャンプ）
　　朝日新聞　バイク図書館　村を照らす（ミャンマー）
7月　朝日新聞　ミャンマー難民ためらう帰還（難民キャンプ）
8月　読売新聞　ミャンマーに日本の絵本を　翻訳シール貼る協力者募集
10月　雑誌装苑　Gift show　クラフトエイド
　　テレビ　テレビ東京系列林修の「世界をひらく僕らの一歩」カンボジアCLC事業紹介
11月　朝日新聞　家にあるもので貢献（もので寄付）
12月　テレビ　NHK総合（中国地方）　アフガニスタン ワヒド・ザマニ所長代行インタビュー

会計報告

貸借対照表

2015年12月31日現在

資産の部　（単位：円）

1. 流動資産（現預金等）	101,207,314
2. 固定資産	
（1）基本財産	50,000,000
（2）特定資産（特定預金）	346,400,911
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	15,862,452
固定資産合計	412,263,363
資産合計	513,470,677

負債の部

1. 流動負債（預り金等）	16,156,329
2. 固定負債（退給引当金）	20,307,382
負債合計	36,463,711

正味財産の部

1. 指定正味財産	365,130,441
2. 一般正味財産	111,876,525
正味財産合計	477,006,966
負債、正味財産合計	513,470,677

収 益

費 用

正味財産増減計算書

2015年1月1日～2015年12月31日

一般正味財産の部

経常増減の部　（単位：円）

（1）経常収益	
基本財産運用益	50,000
特定資産運用益	380,970
受取会費	25,903,000
受取寄附金	473,242,295
受取補助金等	256,498,151
事業収益	116,406,335
雑収益	3,156,296
経常収益合計	**875,637,047**
（2）経常費用	
①事業費	
公益目的事業1（途上国における開発協力事業）	
タイ事業費	4,024,217
カンボジア事業費	141,344,783
ラオス事業費	57,945,359
ミャンマー（ビルマ）難民事業費	61,392,366
アフガニスタン事業費	169,636,880
ミャンマー事業費	65,858,562
海外事業支援費	26,958,050
アジアの図書館サポーター事業費	5,689,230
公益目的事業1合計	**532,849,447**
公益目的事業2（国内・国外における緊急救援事業）	
東日本大震災支援事業費	105,162,165
緊急支援費（海外）	105,791,430
公益目的事業2合計	**210,953,595**
公益目的事業3（開発協力事業に関する普及啓発事業）	
絵本を届ける運動事業費	35,238,830
広報事業費	34,924,604
公益目的事業3合計	**70,163,434**
公益目的事業共通事業費	8,320,532
公益目的事業合計	**822,287,008**
収益事業等	
クラフトエイド事業費	36,300,880
業務委託費（コンサル）	71,343
本で寄付するプロジェクト事業費	7,734,402
収益事業等合計	**44,106,625**
②管理費	18,139,699
経常費用合計	**884,533,332**
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 8,896,285
評価損益等計	0
当期経常増減額	**▲ 8,896,285**

経常外増減の部

（1）経常外収益	0
（2）経常外費用	1,772,111
当期経常外増減額	▲ 1,772,111
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 10,668,396
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 10,738,396
一般正味財産期首残高	122,614,921
一般正味財産期末残高	**111,876,525**

指定正味財産の部

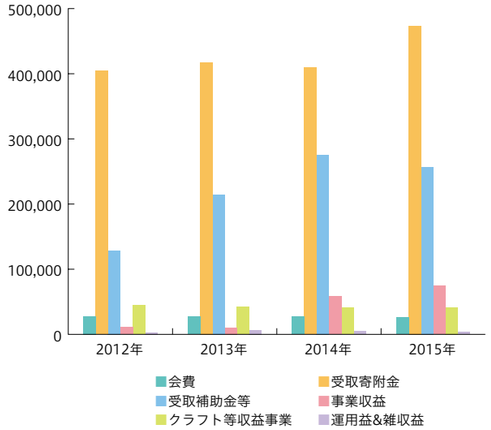
（単位：円）

基本財産運用益，特定資産運用益	430,970
受取補助金	165,424,210
受取寄附金	251,648,031
一般正味財産への振替額	▲ 615,052,128
当期指定正味財産増減額	▲ 197,548,917
指定正味財産期首残高	562,679,358
指定正味財産期末残高	**365,130,441**
正味財産合計	**477,006,966**

収益推移表（一般正味財産）

（単位：千円）

収益	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
会費	27,575	27,033	27,255	25,903
受取寄附金	404,651	417,728	409,322	473,242
受取補助金等	128,494	214,922	275,825	256,498
事業収益	11,181	10,492	58,312	74,644
クラフト等収益事業	44,392	42,013	41,001	41,762
運用益＆雑収益	3,185	6,426	4,628	3,587
	619,889	**718,892**	**816,477**	**876,067**



費用推移表

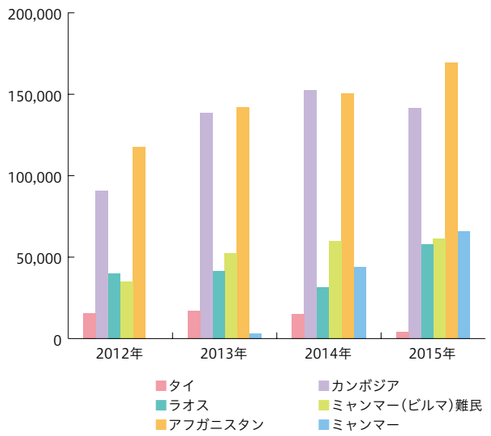
（単位：千円）

費用	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
開発支援事業	335,639	432,331	492,829	532,849
緊急支援事業	129,165	145,264	213,368	210,954
広報・啓発事業	62,794	67,440	69,250	70,163
公益事業共通費	13,430	14,627	9,436	8,321
収益事業等	30,917	35,206	36,612	44,107
管理費	32,112	35,077	20,269	18,140

海外事業費推移表

（単位：千円）

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
タイ	15,462	16,929	15,060	4,024
カンボジア	90,564	138,349	152,425	141,345
ラオス	40,118	41,496	31,711	57,945
ミャンマー（ビルマ）難民	35,220	52,321	59,846	61,392
アフガニスタン	117,889	142,226	150,431	169,637
ミャンマー	0	3,020	43,995	65,859



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

組織ネットワーク

会員　会員合計 …… 1,784人　社員会員 …… 302人　個人 …… 251人　団体 …… 51人　賛助会員 …… 1,482人　個人 …… 1,300人　団体 …… 182人　※2015年12月末日時点

名誉会長
松永 然道　静岡県・宗徳院東堂

顧問
足立 房夫　一般社団法人協力隊を育てる会 会長
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 副会長
阿部 豊淳　宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏　特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 常務理事
川原 英照　熊本県・蓮華院誕生寺 貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝　荒川区職員労働組合 顧問
松野 宗純　福井県・地蔵院東堂

専門アドバイザー
岡本 真　アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役
大菅 俊幸　曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子　かまくらさちこ株式会社 代表取締役
長浜 洋二　株式会社PubliCo 代表取締役CEO
手束 耕治　カンボジア宗教省仏教研究所顧問

理事・監事
若林 恭英　長野県・安楽寺 住職
神津 佳予子　有限会社ケイアンドアイ 代表取締役社長
三部 義道　山形県・松林寺 住職
茅野 俊幸　長野県・瑞松寺 住職
市川 斉　シャンティ常勤役員
秦 辰也　近畿大学国際学部 教授
早坂 文明　宮城県・徳本寺住職
青木 利元　作家
有馬 嗣朗　山口県・原江寺 住職
磯辺 康子　フリーライター
岡本 和幸　千葉県・真光寺 住職
下澤 嶽　静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科 教授
神 仁　公益財団法人全国青少年教化協議会 主幹・常任理事
関 尚士　シャンティ事務局長
中村 紀子　東京都消費者月間事務局 事務局長
野村 修一　弁護士
笛岡 賢司　静岡県・龍谷寺 住職
八木 澤克昌　シャンティアジア地域ディレクター兼ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所 所長
渡邊 智恵子　株式会社アバンティ 代表取締役
野中 茂　野中公認会計士事務所 公認会計士
増田 和生　元自治労大阪府本部 特執

国内における主な受賞歴
正力松太郎賞（1984年）
ソロプチミスト日本財団賞（1985年）
外務大臣賞（1988年）
毎日国際交流賞（1994年）
東京都豊島区感謝状（1995年）
防災担当大臣賞（2004年）
兵庫県知事感謝状（2005年）
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（2008年）
宮城県社会福祉協議会感謝状（2011年）
ESD岡山アワードグローバル賞（2015年）
※2015年12月末日現在

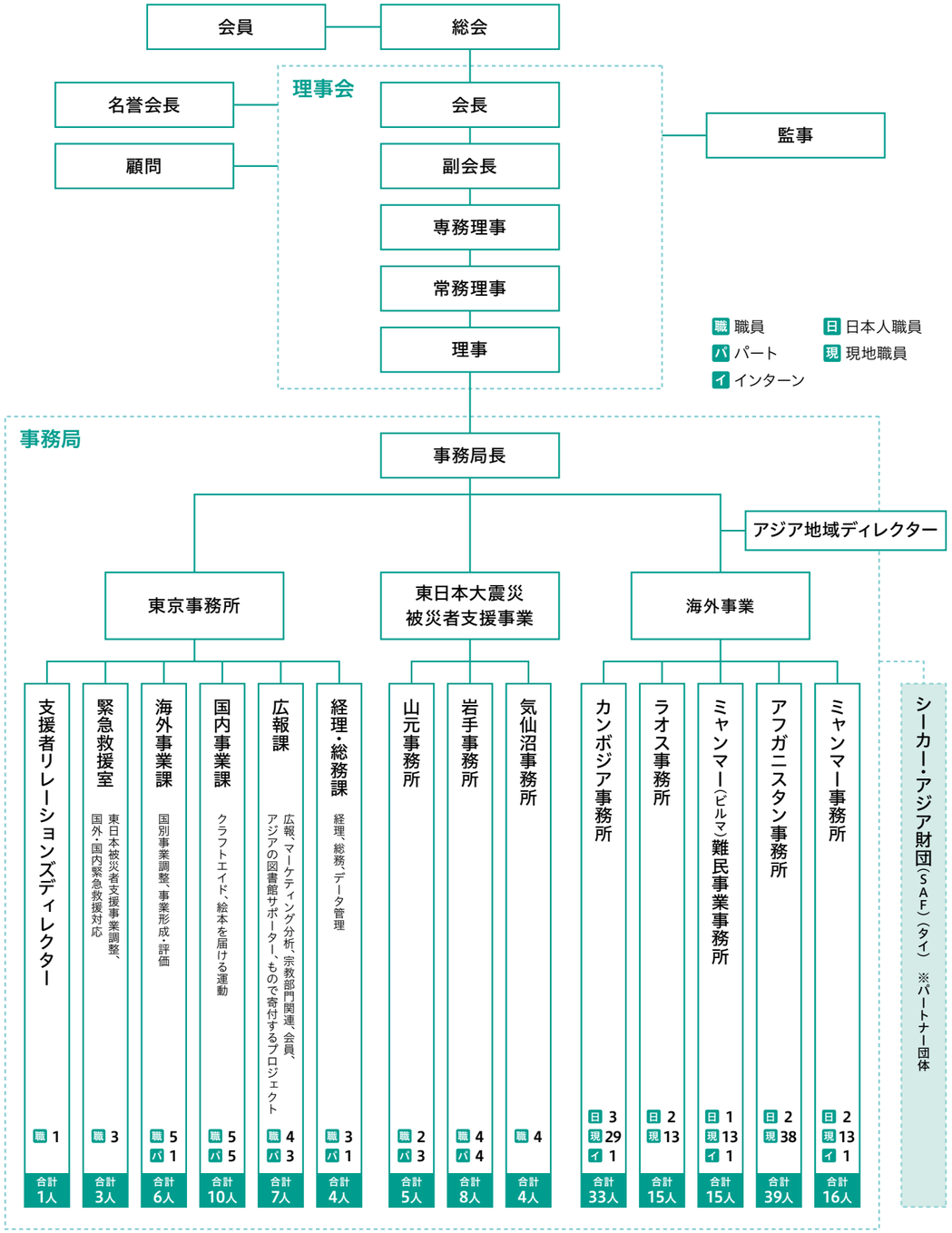
参加ネットワーク一覧
国内
動く→動かす【フレンズ会員】／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【監事】／ NGOと企業の連携推進ネットワーク【会員】／ NGO労働組合国際共同フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【理事】／紙芝居文化推進協議会【会員】／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワーク（JNNE）【事務局長】／国際協力NGOセンター（JANIC）【理事】／災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議（支援P）【検討委員】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会【賛助委員】／ジャパンプラットフォーム（JPF）【会員】／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）【団体会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）【会員】／東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会【委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議【参加団体】／東京ボランティア・市民活動センター【運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク【団体会員】／日本NPOセンター【会員】／日本図書館協会【会員】／日本ファンドレイジング協会【団体会員】／日本UNHCR－NGOs評議会（J－FUN）【団体会員】／防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）【参加団体】／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）【団体会員】／ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク【常任委員】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／仏教NGOネットワーク（BNN）【副理事長、事務局長】／公益財団法人庭野平和財団【理事】／全日本仏教会支援検討委員会【委員】

海外
●カンボジア　Cooperation Committee for Cambodia（CCC）【会員】／ NGO Education Partnership（NEP）【会員】／カンボジア日本人会（JACAM）【会員】・カンボジア市民フォーラム【現地世話人】Japanese NGO Worker's Network in Cambodia（JNNC）　共同代表
●ラオス　International NGO Network【会員】／ Japanese NGO Meeting（JANM）【参加】
●ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ　Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand（CCSDPT）（難民支援事業調整委員会）【会員】
●アフガニスタン　Agency Coordinating Body For Afghan Relief（ACBAR）【会員】
●ミャンマー　Japan NGOs Network – Myanmar（JNN-Myanmar）【会員】
●全体　Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education（ASPBAE）【理事】／ The Asia Disaster Reduction & Response Network（ADRRN）【Associate Member】

※2015年12月末日現在

組織図

事務局員（専務理事、常務理事除く、SAF、インターン含まず）166人　日本人職員 60人　現地職員 106人
※2016年2月1日時点



シャンティが目指す姿

シャンティの使命　*Mission*——ミッション

人間の尊厳と多様性を尊び、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を実現します。

シャンティが目指す姿　*Vision*——ヴィジョン

人びとの考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

シャンティの基本姿勢　*Value*——ヴァリュー

1. 苦難の中にいる人々人びとと、
痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます。

2. 地域の伝統的な文化を重視し、
民族、宗教、言語の違いを尊重します。

3. 人びとが自ら気づき、行動し、
自立へと向かう開発を重視します。

4. 互いに支えあい、高めあうための触媒としての
役割を果たします。

移動図書館バイクの前で読み聞かせ（ミャンマー）　©Yoshifumi Kawabata　絵本『おおきなかぶ』（福音館書店）

あゆみ

1980年 — シャンティの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立。カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所開設。

1981年 — JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会を結成。

1984年 — 初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。

1989年 — タイ・バンコクのクロントイ・スラムに職業訓練センター開設

1991年 — カンボジア事務所開設。タイにシャンティの現地法人シーカー・アジア財団を設立。

1992年 — ラオス事務所開設。
「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。

1995年 — 阪神・淡路大震災被災者支援活動実施。

1999年 — 「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。

2000年 — ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所開設。
シャンティ創設者有馬実成元専務理事逝去。

2001年 — 米国同時多発テロ後アフガニスタン難民支援活動実施。

2003年 — アフガニスタン事務所開設。

2005年 — 愛・地球博「地球市民村」へ参加。
「アジアの図書館サポーター」制度開始。

2011年 — 宮城県気仙沼市、岩手県遠野市に事務所を構え東日本大震災被災者支援活動実施。
シャンティ30周年。

2012年 — 宮城県山元町に事務所を構え東日本大震災被災者支援活動実施。

2014年 — ミャンマー事務所開設。

2015年 — ネパール地震被災者支援活動実施。
シーカー・アジア財団現地自立化。

『はらぺこあおむし』偕成社　©Yoshifumi Kawabata

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプのコミュニティ図書館　©Yoshifumi Kawabata

「年次報告書」制作にご協力いただいた方々

執筆協力　藤原 千尋（フリーライター）
編　　集　大谷 薫子（モ・クシュラ株式会社）
デザイン　佐藤 理樹（アルファデザイン）
写　　真　川畑 嘉文（フォトジャーナリスト）

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association

2015年度年次報告書

発行日　2016年6月1日
発行人　若林恭英
発行所　公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160 - 0015　東京都新宿区大京町31　慈母会館 2・3階
TEL 03 - 5360 - 1233　FAX 03-5360-1220
WEB　http://sva.or.jp
Email　info@sva.or.jp

郵便振替口座　00150-9-61724
印刷　株式会社 大川印刷

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。
詳しくは当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C009309
www.fsc.org

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

GREEN PRINTING JFPI
P_B10164

VOC FREE™